

問1 千葉県や神奈川県といった南関東の沿岸部において、冬でも比較的温暖な気候となる自然要因として、最も適切な説明はどれですか。（2022年

徳島県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|--|
| 1. 暖流である黒潮（日本海流）が太平洋沿岸を流れており、周囲の気温を下げにくいため | 2. 寒流である親潮（千島海流）が冷たい空気を運ぶことで、冬の乾燥を防いでいるため | 3. 日本海を北上する対馬海流が、関東平野に暖かい湿った空気を送り込むため | 4. 内陸から吹き下ろす乾いた季節風が、山地で暖められて沿岸部に到達するため |
|--|---|---------------------------------------|--|

問2 群馬県北部の地点から南東の埼玉県側の地点を結ぶ地形の断面的な特徴について、その標高の変化を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 岡山県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 南東側の平野部から北部の山地に向けて標高が緩やかに上昇し、標高500メートル程度のなだらかな丘陵地が続く地形 | 2. 群馬県北部から埼玉県にかけて標高の差がほとんどなく、全域にわたって標高100メートル以下の平坦な土地が広がる地形 | 3. 北部の山地と南東の平野部の間に巨大な盆地が存在するため、中央部で一度標高が大きく下がった後に再び上昇する地形 | 4. 標高2000メートルを超える北部の険しい山地から、南東へ進むにつれて標高が急降下し、広大で平坦な関東平野が続く地形 |
|---|---|---|--|

問3 群馬県の高原地帯で行われている「抑制栽培」について、農家がこの栽培方法を選択している経済的な理由として最も適切な説明を選択してください。（2022年 福島県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 九州地方などの暖かい地域と出荷時期を重ねることで、市場でのシェアを競い合うため。 | 2. 大消費地である東京から遠いため、輸送コストを削減するために収穫時期を遅らせる必要があるから。 | 3. 平地での出荷が少なくなる夏から秋にかけて出荷することで、高い価格で販売できるから。 | 4. 冬の寒さが厳しいため、ビニールハウスを利用して成長を早める促成栽培を行う必要があるから。 |
|---|---|--|---|

問4 日本の人口動態に関する統計において、東京都では他地域から引越してくる人数（転入者数）が、他地域へ引越していく人数（転出者数）を大きく上回る状況が続いています。このような人口移動の結果として生じる人口の増加を何と呼びますか。（2018年 三重県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|---------------|----------|---------|
| 1. 社会的増加 | 2. 合計特殊出生率の向上 | 3. 自然的増加 | 4. 人口爆発 |
|----------|---------------|----------|---------|

問5 埼玉県行田市の市街地には、かつての城下町としての構造と、近代以降に発展した地場産業の歴史が共存する景観が見られます。敵の侵入を遅らせる目的で道路をクランク状に曲げた「櫛形」と呼ばれる遺構や、明治時代以降に日本最大の産地として発展したある製品を保管するための蔵や鋸屋根の工場が今も残っています。この地域で発展した伝統的な産業として正しいものはどれですか。（2026年 東京都公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|----------|----------|-----------|
| 1. 繊維産業 | 2. 足袋製造業 | 3. 醤油醸造業 | 4. 陶磁器製造業 |
|---------|----------|----------|-----------|

問6 栃木県・群馬県・茨城県を中心とする北関東の工業地域において、1960年代には内陸部に点在していた工場の分布が、近年では特定の交通網に沿って集中するように変化しています。この地域で新しく工場や物流拠点が建設されている場所の特徴として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------------|------------------------|-----------------------|---------------------|
| 1. 高速道路のインターチェンジ周辺 | 2. 広大な農地を確保しやすい山間部の急斜面 | 3. 貨物列車の積み込みを行う鉄道駅の周辺 | 4. 大型貨物船が停泊できる港湾の付近 |
|--------------------|------------------------|-----------------------|---------------------|

問7 成田国際空港などの拠点で行われる「航空貿易」において、半導体などの電子部品や医薬品が主要な取引品目となっている理由として、最も適切なものはどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 製品の形が複雑であり、船舶のコンテナに積み込むことが技術的に困難だから | 2. 航空機は船舶に比べて一度に大量の物資を運べるため、輸送コストを最小限に抑えられるから | 3. 国内の港湾施設が老朽化しており、精密機械を安全に積み下ろしすることができないから | 4. 製品が重量のわりに価格が高い「高付加価値」なものであり、輸送時間の短縮が重視されるから |
|--|---|---|--|

問8 ある都市の特定の地域において、1990年代後半には約300人であった人口が、2010年代後半には6,000人を超えるほどに激増した事例があります。この地域では、以前は工場や駐車場として使われていた場所の多くが、現在は21階以上の高層マンションに変わっています。このような変化をもたらした主な要因として最も適切なものはどれですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 地価の下落による、広大な敷地を持つ低層工場の都心部への移転 | 2. ドーナツ化現象による、職住分離を目的とした郊外住宅地の拡大 | 3. 鉄道利用などの利便性を背景とした、再開発による居住機能の強化 | 4. 食料自給率の向上を目的とした、都市農業のための生産緑地の指定 |
|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|

問9 群馬県太田市などの北関東の都市を中心に見られる、高速道路のネットワークを活用した工業の立地について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 奈良県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。 | 2. 原料を海外からの輸入に頼るため、大型船が接岸できる埋立地や臨海部に広大な工場用地を確保している。 | 3. 製品の鮮度を保つために、消費地である大都市の中に小規模な工場が点在し、地下鉄を利用して製品を運んでいる。 | 4. 電力の確保を最優先とするため、大規模な水力発電所が建設されている山間部の急流沿いに工場が密集している。 |
|--|---|---|--|

問10 香取市佐原の歴史的景観が形成された背景として、地理的な条件と歴史的な背景を組み合わせた説明として正しいものはどれですか。（2025年

埼玉県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 利根川下流の小野川沿いに位置し、江戸時代に物資を運ぶ舟運の拠点として発展したため、商人たちの活気ある町並みが作られた。 | 2. 急峻な山々に囲まれた要害の地であったため、戦国時代の城郭建築を中心とした都市景観がそのまま残された。 | 3. 明治時代以降に海外貿易の拠点として開港されたため、西洋風のレンガ造りの建物が並ぶ港町として発展した。 | 4. 広大な平野を活用した大規模な稲作を推奨するため、幕府が農民の居住区として計画的に建設した集落である。 |
|--|---|---|---|

問11 1700年ごろ（18世紀初頭）の日本における田と畑の面積の状況について、全国的な傾向と地域的な特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2026年 大阪府公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 日本全体では田の面積が畑を上回っているが、関東地方では畑の面積の方が田の面積よりも広がった。 | 2. 全国のすべての地方において、主食である米を生産するための田の面積が畑の面積を上回っていた。 | 3. 近畿地方や中国・四国地方では、商品作物の栽培が盛んになったことで、畑の面積が田を大幅に超えている。 | 4. 九州地方は火山灰地の広がりにより、全国で唯一、畑の面積が田の面積を上回る地域となっていた。 |
|---|--|--|--|